

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『基本方針』と『基本理念』を各ユニットの壁面に掲示し、職員との共有をはかっている。	各ユニットに基本方針と基本理念が掲げられ、またグループホーム独自の理念も考えられ、職員と共有し実践につなげられています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に対して、苑の行事である敬老会や夏祭り等の行事へ呼びかけ参加して頂いている。	地域の行事に参加されたり、苑内の行事にも参加されています。また職業体験や実習の受け入れもされています。毎週月曜日には喫茶を開かれ、積極的に地域と係わられています。	地域の行事に参加するだけでなく、文化祭などでは作品の出品なども考えておられ、今後実現できるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、「認知症の人」の理解を高めていくために、定期的に勉強会をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議以降の行事・レクの結果と今月、次月の予定、そして利用者状況報告として、「ヒヤリハット」と「事故」報告を行っている。	2か月に1回行われ、行事や予定・事故報告・ヒヤリハットの報告がされ意見の交換がされています。また、参加しやすいよう開催日は日曜日されるなど工夫がされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への利用者家族の参加率は日曜日が高いため、地域包括担当者の理解を得て、日曜日に開催し、参加をお願いしている。	運営推進会議以外にも2か月に1回、地域のケア会議に参加されています。また認知症養成講座などにも参加し、積極的に市町村とも連携がされています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	目に見える「身体拘束」のみならず、結果的に拘束となり得る事例を排除すべく、検討を重ねている。	身体拘束のマニュアルがあり、職員で共有されており、玄関の施錠など一切行われていません。また、研修に参加されたり、利用者の情報を共有し、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待の防止」(通報・届出・相談)を各ユニットの目立つ所に掲げ、意識の高揚を図っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市社協との連携で月1回の相互情報交換と確認を図っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>実際に面接を通して説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議及び家族会において、忌憚ない意見を求めている。</p>	<p>運営推進会議や年1回の家族会を開催し、意見や要望を話し合わせ運営に反映されています。また、面会時等積極的に話しかけられ、意見や要望を話しやすい環境になっています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>苑長の指導のより、危機管理意識を持って、各部署の問題点を含む提案の推進を図っている。</p>	<p>月1回の全体会議や日々のミーティングや会話の中から意見や提案を聞き運営に反映されています。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>上記の提案の推進の他、職務資格取得を勧め、費用の負担を行っている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「県福祉人材センター」「認知症グループホーム教会」「老施協」「県認知症支援協会」等の定期的な研修他、介護スキル向上のためのセミナーへの参加を応援している。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>上記の研修及びセミナーに加え、県内のG. Hの事業所間の相互実習に積極的に参加し、他の事業所の良いところを学ぶ機会を得ている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される日より以前に、ご家族にお願いし、「生活史アンケート」を提出して頂き、事前の情報を得、スタッフが共有することにより、スムーズな苑での生活がスタートできるようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日以前に、本人と家族に来て頂き、住居を確認頂きながら、各々の思いを聴き取り、出来る範囲で入居日に対応できるよう準備している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記の15、16により、入居日当日より、必要な個別のサービス利用が出来るように心がけている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々接する中で、常に利用者の意向を伺い、皆で共有できるもの、個別に対応が必要なもの（必要なこと）を見極めながら、一緒に生活をしているという姿勢で臨んでいる。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフのスキルで納得頂けない場合には押し付けず、家族の応援を得るべく状態（身体、精神面の両方）を連絡し、一緒に支えるべく対応をしている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人がデイサービス利用の方の場合には、その方の利用日にデイルームにお連れし、オセロを楽しんで頂いたり、家族との外出を勧めている。	知人の面会や隣接の特養やデイサービスの利用者の方とも面会し以前からのかかわりも継続されています。またレクで制作した絵手紙を送ったり電話したり、以前からの関係継続を支援されています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事・レクや野菜作り等、出来るだけ多く参加して頂き、他の利用者との接触の機会を大切にしています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣にて生活されている場合には、定期的に様子を伺ったり、遠方の家族と生活を始められた場合には電話で連絡させて頂いたりしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に提出して頂く「生活史アンケート」を参考にし、また家族の意見を交え対応を検討している。また、カンファレンスで途中変更等協議している。	入居前の生活史アンケートを参考に本人・家族の希望や意向を把握されています。またカンファレンスなどで職員間でも共有しケアにいかされています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	同上		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤時、起床時また、朝夕のバイタルチェック時（ティータム）に様子観察を行っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に可能な限り時間を頂き、家族に確認しながら、計画を立てている。	見直しは定期的に行われ、面会時や日々のかかわりの中で、利用者や家族の意見や思いを把握し、カンファレンスを行い、介護計画を作成し共有されています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が利用者のいつもとちよつと違うところに「気づく」ことを目標にした様観でスタッフの情報の共有に努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な整形外科、内科、眼科への受診を計画、往診もあり、また必要が生じた際には、家族に連絡の上、可能な限り当苑で対応するようにしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員でもある公民館館長の勧めで文化祭の見学や地域の方の芸能発表会を見学させて頂いている。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には、協力医を受診して頂くが、必要に応じて専門医の紹介を受け、受診して頂いている。</p>	<p>家族の意向を入所時等に聞き、以前のかかりつけ医にも受診できるよう相談されています。また、通院介助も行われています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>職員に看護師がいなため、特養の看護師に相談、協力を得て連携体制を構築している。契約担当看護師以外でもいつでも必要な時に相談できる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関との連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>可能な限りグループホームで生活の支援を行うが、他の入居者へのサービスに大きく影響するほどのADLの低下がみられた際には、特養への転居を含め相談させて頂いている。</p>	<p>看取りも行われており、可能な限りグループホームで生活の支援が出来るよう終末期になると近隣の先生と連携し対応されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>「緊急時対応マニュアル」にて指導、また研修等で新しい情報を得るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。</p>	<p>消防の立ち会いのもと、年2回消防訓練を実施されています。また、近隣の自治会と防災の話し合い等を進められています。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>基本理念に基づき、入居者の尊厳を大切に する支援に努めている。</p>	<p>基本理念に基づき支援 されています。また、 重度化することにより 支援に対し、本人の生 活歴等を考え、対応す るよう心掛けておられ ます。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望 を表したり、自己決定できるように 働きかけている</p>	<p>転倒などのリスクが 予測されることがない 限り、本人及び家族の 思いや希望を聞き、そ れに添うように指導し ている。</p>		
38	15	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりのペースを 大切にし、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそって支援して いる</p>	<p>一日の流れは概ね決 まっているが、食事の メニューはもとより、 食事のペース、入浴、 排泄の場面において も、各々違うペースに 合わせた対応につとめ ている。</p>	<p>ホームでの一日の流れ は決まっていますが、 食事のメニューや食事 のペース・入浴・排泄 等、個々のペースに合 わせ対応されていま す。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃ れができるように支援している</p>	<p>月に二回の出張理美 容を利用して頂き、季 節感を理解して頂ける ように声かけをしながら 整容の支援を行って いる。</p>		
40	16	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、 一人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者職員が一緒に準備や食 事、片付けをしている</p>	<p>利用者の献立の希望 を優先した食材の買物 に心掛けると共に、可 能な限り、食事の準備、 後片付けを一緒にし て頂いている。</p>	<p>献立は利用者の希望も 聞かれ、ユニットごと に献立も違い食事を楽 しむ工夫がされていま す。可能な限り食事の 準備や後片付けも行わ れています。また、気 候の良い日には外食な どの支援もされていま</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量 が一日を通じて確保できるよう、一 人ひとりの状態や力、集会に応じた 支援をしている</p>	<p>年一回のお誕生月健 診での採血結果やBMI を基本に、個別に必 要な水分摂取量を意識 した声かけ支援に心掛 けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じな いよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態 や本人の力に応じた口腔ケアをして いる</p>	<p>部分入れ歯、総義歯 等、各々違う口腔内 の状態と本人の歯磨き、 すすぎの能力を考え合 わせて、対応してい る。</p>		

43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>念のために家族の依頼もあり紙パンツを使用している入居者においても、基本的に本人の尿意、便意を最優先に対応、プラス定期的な声かけ誘導で夜間就寝時以外の失敗は少なくなっている。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>慢性的な便秘症対策として服薬している入居者もいるが、基本的に、食物の工夫、必要適量な水分摂取、適度な運動を促すことで軽減、改善を図っている。</p>		
45 17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴前のバイタルチェック時に異常がない限り、本人の意思で決めて頂いている。お風呂嫌いな方には、清潔保持の必要上、週一回のペースで入浴して頂いている。</p>	<p>本人の意向に合わせて入浴の支援をされており、入浴出来ない時でも、足浴や清拭等行われ個々に応じた入浴支援がされています。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>読書や書きものなどで凝り性の方に対して頻回の訪室にて、休息を促し、日中ベッドで横になられる時間が多い方には、行事・レクや散歩など軽い運動を勧め、夜間不眠にならないように努めている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者が服用している薬は全て、スタッフが手配し、管理し、必要時に手渡しして服薬して頂いている。また一日二回のバイタルチェックで、気になることがあれば、主治医に相談している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前の「生活史アンケート」を基本に、「その人」個人の趣味嗜好を含めた理解に努め支援することに心掛けている。。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	基本的に、デイルームや特養、また新しいユニットへのお出かけ、近隣への散歩、健康不安による受診希望に対しては日常的に希望に添うようにしている。	夏・冬等は熱中症やインフルエンザなどの問題もあり控えておられるということでしたが、気候の良い時期には、日常的に散歩や買い物等にいかれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の価値を認識されている方には所持して頂き、本人の管理が困難な方、異食等で問題が有る方には事務所預り管理にて、ショッピングやドライブの途中の立ち寄り時での買物の機会を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手指の痺れがある方への「電話をかける」「お金を入れる」の支援、また手紙を書かれる方には、切手の手配等を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を基調にした建物、また広すぎない空間で、メダカを飼い、玄関の外（中庭）に花を植え、一般的な家庭の雰囲気とあまり違和感がないように心掛けている。	木を基調とした建物で温かみがあり、広すぎず家庭的な空間で、本人・家族にも馴染みやすく、居心地の良い環境作りに配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行事・レクへの参加でデイルームに出かけたり、居室にて読書を楽しまれたりと基本的には、各々の趣味嗜好の尊重重視の姿勢で臨むが、閉じこもり傾向の方には極力ダイニングに出てこられるよう声かけを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、本人の動線上に問題がない限り使い慣れたものを持ちこんで頂き、以前の生活と大きな環境の変化がないように努めている。	以前の生活と大きな環境の変化がないように、テレビ・冷蔵庫等、使い慣れた物を居室に置き、本人の動線上問題のないよう配慮され居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に居室での転倒に対し、動線上の安全の確保と、ベッドからの立ち上がりが少し厳しい方には、滑り止めマット等で対応など環境整備に努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない